

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1474000203	事業の開始年月日	平成12年4月1日
		指定年月日	平成12年4月1日
法人名	有限会社 さがみ福祉会		
事業所名	グループホーム タケハウス鶴巻温泉		
所在地	(〒259-1137 ) 神奈川県伊勢原市笠窪367-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家の中では、家庭的な雰囲気を大切にしている。
------------------------

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目-10番地 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成26年10月8日	評価機関 評価決定日	平成26年11月6日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、小田急線鶴巻温泉駅から徒歩約10分のバス通りから少し入った住宅や畑に隣接した緑豊かな場所にある。建物は、2階建てのアパートとして使用されていたものを増改築して、2ユニットのグループホームとしている。以前の構造を活用して洗面台とトイレ付きの独立性の高い個室となっているが、重度化した場合はスタッフ詰所に近いバリアフリーの部屋に移ってもらい、職員がいつでも様子を見守り緊急時にも対応出来るようにしている。 敷地は広く、玄関脇には花を植えたプランターが並び、その先にはオオバヤミョウガ、サツマイモやホウレン草などが植えられており利用者や職員が手入れをして育て、収穫した野菜を食事に供している。玄関先やウッドデッキには机と椅子が置かれている。気候が良いときには、利用者が座ってひなたぼっこやおしゃべりを楽しんでいる。</p> <p><b>【理念に基づいた利用者の支援】</b> 理念の主旨は「利用者とその家族、地域社会、事業所、職員が連携し利用者と共に生きる喜び、愛情、感情を分かち合える」というものである。管理者や職員は利用者を中心に家族との連携を大切に考え、通院支援の際には事前に家族の了解を得て、受診後も報告するなど連絡を密に行っている。家族の来訪した折には、利用者のこれまでの状況の変化や改善できたことなどを説明して家族の意見や希望を聞き取ったり、写真を撮って家族関係を確認したりして連携を深める努力をしている。 利用者の支援においては、利用者の人格を尊重しながら自立した生活を支援することを心がけている。声かけや誘導の際には年長の家族に接するように親しい中にも尊敬の念を持って接している。調査時の昼食の際には、同席して楽しく食事が出来るように話しかけたり介助したりして、食後はお茶を飲みながら和やかに世間話に花を咲かせ、折りをみて服薬の支援や歯磨きの介助を行い、食器の後かたづけなどをしてもらっていた。また、職員は入院中の方や退所して他施設へ移った方のところにも顔を出し、言葉を交わしたり話を聞いたりして利用者との繋がりを大事にしている。</p>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム タケハウス鶴巻温泉
ユニット名	ユニット①

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、職員一人ひとりが理念を把握し日々のケアに活かせる様にしている。	職員は事業所の理念を認識して日々利用者に寄り添い、家族のように接して出来ることをやってもらうなど自立を支援している。また、家族との繋がりを大事にして、来訪時には利用者の様子や改善できたことなどを伝え、意見や希望を聞きサービスに役立てている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・自治会活動にも参加出来ている。と共に、敬老会や老人会の参加もあり相互交流ができています。	自治会に加入し、溝の掃除などに参加している。事業所の納涼祭に近隣住民を招待している。地域の傾聴ボランティアが毎週来てくれている。看護学校の実習生を受け入れている。近所の方から果物を頂いたり利用者がイチゴ狩りなどのお土産を届けたりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア・実習生の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて協議した事を再度職員間で協議し、ホーム運営の向上に活かしている。	運営推進会議は、伊勢原市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族・利用者代表、管理者などが参加して年3回開催している。事業所の活動状況や防災訓練の報告などを行いその後参加者と意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3～4ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。その際、市担当者に参加してもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の高齢福祉課職員とは運営推進会議を通じて連携している。生活保護費受給者について、担当職員に毎月1回電話で報告をするほか、職員が来訪した際に情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束に対し認識しており、全ての利用者の自由を尊重している。	運営規定や契約書に拘束排除について明記している。やむを得ない場合は「身体拘束に関する説明書・同意書」を家族に示し同意を得ている。1階入り口は事務所に人がいる時は開錠し、2階入り口は安全確保のため施錠しているが、職員全員が鍵を所持し、非常災害時の対応が直ぐに出来る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修等に積極的に参加している。又、ユニット会議等の機会に虐待について職員同士話し合い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市が主催する研修等に参加し、権利擁護について理解すると共に必要な利用者については家族と話し合い活用できるよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約・解除を行っている。又、事前のアセスメントの際についてもホームの特性等説明し、理解してもらった上で不安、質問等に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より不満・苦情等が発生した時には、その都度職員間で協議、共有し日々のケア、運営に反映出来るように努めている。	来訪した家族から、出来る限り希望や意見を聞いたり、運営推進会議の際に出席した家族・利用者から意向や苦情を聞き取っている。家族から通院介助の希望が多く、場合によっては職員2人体制で通院の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員同士の懇親会を月に一度行い、その時に出た意見や要望を日々のケア、運営に取り入れている。	毎月1回ユニット会議を行うほか、ユニット会議に出られない非常勤職員が参加する小会議を月2回開催し、参加者は意見や要望を述べる事が出来る。利用者の重度化に対応して、職員の意見や提案を聞いて支援の体制を変えるなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個人生活においてなるべく安定できるような給与水準を実行し、福利厚生においても就業規則に反映し職員が無理なく働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等があれば積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県央部グループホーム協議会に参加し交流や相互研修などを行い互いのサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。訴え時や変化が見られる時には、居室等で一人ひとりとじっくり話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に、アセスメントを行い来所時にもその都度ニーズを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に当ホームの特性を細かく説明し、他のサービスの利用が妥当であれば、説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事（調理）・散歩・買物等を共にし、お互いに過ごしやすい環境づくりをしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や行事等で利用者の生活を共にし、家族からの要望を取り入れた環境をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望する場所へ出掛けたり、馴染みの友人等の来所を快く受け入れている。	利用者との日常の会話の中から懐かしい場所や昔の思い出を聞き取り、出かけるなどの支援をしている。手紙や年賀状は、職員が同行して投函している。2か月ごとに訪れる訪問理美容の方と、馴染みの関係となり、会話を交わすのを楽しみにしている利用者がある。友人・知人の来訪時にはお茶などを出して歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の揉め事時には、スタッフが間に入り対処している。利用者同士が不安や悩み等を話し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム便りを郵送したり、必要に応じて連絡を取り合っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの要望を取り入れ、困難な場合にも出来る限り気持ちを汲み取れる様に努めている。	職員は、日頃から利用者とのコミュニケーションを密にして思いや意向を聞き取っている。また、通院に付き添う時にゆっくり話を聞いたりしている。意向の把握が困難な場合は、スタッフを変えたり主治医を介して意思疎通を図ったりして本人の意向を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントや本人・家族より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察をし、小さな変化にも迅速に対応できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所時に近況報告をし、それぞれの意見を取り入れ一人ひとりに合った計画を立てている。	職員は介護計画を認識して、計画に沿った介護記録をつけている。毎月行うカンファレンスで、職員全員が意見を出し合ってモニタリング・評価を行っている。家族や主治医の意見も取り入れて定期的に計画を見なおし、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報を作り、日々の利用者の状況・行動・変化を毎日記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望や、状況により外泊・外出・習い事等を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、今は散歩、民謡会ともボランティアの導入は無い。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、ホームの主治医を確保している。希望がある場合には、本人のかかりつけ医への受診を行っている。	協力医療機関の往診は月2回で、医療機関の受診には職員が同行している。希望があれば今までのかかりつけ医への受診の支援をしている。他の科目や歯科医は必要に応じて職員が同行し受診している。受診の際には事前に家族に連絡し、受診後は情報を伝えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医を中心としたネットワークがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連絡をとり、早期退院に向け話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・主治医と繰り返し話し合いを行い、方針を共有している。	看取りについて、入居時に家族・利用者に事業所が出来ることを説明し、重度化が進み医療行為が必要になった場合は病院や他の施設に移って貰うとの了解を得ているが文書化した方針はない。現在の事業所の体制について、職員は認識している。	看取りについての方針を文書化して契約時に提示して説明すること、利用者の重度化に備えてターミナルケアの職員研修を行うことを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的にしていないが、今後救命救急講習会をスタッフ全員が受ける予定		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。	消防署の協力を得て防災訓練を年2回、うち1回は夜間想定で行っている。利用者も参加して消火器訓練や避難訓練を実施している。災害備蓄は、職員の方も含めた飲料水・食料、その他の備品など3日分保有している。大半の職員が20分以内に事業所に駆けつけられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族の一員として親しみの持てる態度・声かけを心掛け、記録等ではプライバシーの保護（イニシャルで記入）に努めている。	職員は、入職時に個人情報の保護についての誓約書を提出している。管理者は、人前で自尊心を傷つけるような声かけをしないよう職員に徹底している。個人に関する書類は事務所の書棚で施錠管理し、介護記録などはスタッフの詰所の棚に置き、引き戸やカーテンで見えないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりにわかりやすく説明し、自己決定できる様、促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中・夜間と利用者のペースで一日が暮らせるケアを常に心掛け、外出・買物・調理においてものんびり・ゆっくりを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型・服装等、個人を尊重しつつおしゃれ、アドバイスを行っている。2ヶ月に1回、理美容師が来る他、要望に応じて近隣の理美容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・買物・食材選び、調理を毎日共に行っており、個々の好みを反映した料理を日々作っている。季節や行事を取り入れている。	職員が利用者の好みを考慮しながら献立を作成し、職員と利用者が食材の購入に行っている。庭の菜園で育てた野菜を提供することもある。職員は同席して同じものを食べながら、話しかけたり介助をしたりしている。利用者は、配膳や下膳、食器洗いや食器拭きなどを手伝っている。外食にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕食と毎日献立を記録して、糖尿病、体重、運動に合わせた食事の量を摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立を促しながら適切な口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、声かけ・トイレ誘導等により、失禁を減らせる様に自立を促している。	排泄はほとんどの方が自立で、居室内や居室脇に設置されているトイレを使用している。離床センサーを取り付け、失敗しないよう職員が誘導するなどの対応をしている場合もある。トイレでの自立排泄を目指し、きめ細かい支援でリハビリパンツから布パンツになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスの整った食事作りを心掛けている。散歩及び食事前の体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望した日時・入浴時間を尊重して入浴している。	入浴は原則として週2回で、浴室の入口の壁にある入浴チェック表で管理している。希望があれば時間や回数、曜日の変更に対応している。状況に応じてシャワー浴を行っている。菖蒲湯や柚子湯などで季節感を味わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し安眠、休息の出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬は職員が管理し、用法や用量を承知している。服薬時には職員の見守りの上行い、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が役割や楽しみを持っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩は日常的である。希望がある場合には、その都度対応出来ている。普段は行けない場所については要望があれば検討している。	天気が良ければ、周辺を散歩したり、近くの梅園、公園などへ散歩に出かけ気分転換を図っている。事業所の前にテーブルといすを並べ、日向ぼっこをしながらティータイムを楽しんでいる。ファミリーレストランへ外食に行ったり、イチゴ狩りやミカン狩り、花見、ツツジ見物に出かけでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者統一で、事務所の金庫で所持金を預かっている。が外出・買物時には、希望に応じ個々のお財布を所持し、使用出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に、自由に使用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに食堂内の装飾等で雰囲気を変えている。	明るいろビングにソファ、テーブル、椅子を配置し、利用者は思い思いの場所に座り、職員と会話を交わしたりテレビを見て寛いでいる。リビングの隣りにスタッフの詰所、その奥に厨房や浴室が配置され利用者の様子が把握しやすくなっている。段差にはテープを貼り危険防止に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けのソファ等、利用者同士がくつろげる場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使い慣れている。家具等を持ち込んでいただき、本人の過ごしやすい居室づくりをしている。	居室は、アパートの部屋をそのまま利用しているためトイレ、洗面台が各部屋や部屋脇にあり、利用者にとっては便利である。部屋の採光が良く、出来る人は自分で掃除をしている。入口には大きな字で名前が書かれた写真入りの紙の表札などが貼られて分かりやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差等に滑り止め・蛍光テープなどを設置している。居室においても、本人に合わせ、椅子やベッド・布団等を利用している。		

事業所名	グループホーム タケハウス鶴巻温泉
ユニット名	ユニット②

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を作り、職員一人ひとりが理念を把握し日々のケアに活かせる様にしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・自治会活動にも参加出来ていると共に、敬老会や老人会の参加もあり相互交流ができています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア・実習生の受け入れをしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて協議した事を再度職員間で協議し、ホーム運営の向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3～4ヶ月に一度、運営推進会議を開催している その際、市担当者に参加してもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が拘束に対し認識しており、全ての利用者の自由を尊重している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修等に積極的に参加している 又、ユニット会議等の機会に虐待について職員同士話し合い、虐待の防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市が主催する研修等に参加し、権利擁護について理解すると共に必要な利用者については家族と話し合い活用できるよう心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、契約・解除を行っている 又、事前のアセスメントの際についてもホームの特性等説明し、理解してもらった上で不安、質問等に対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者より不満・苦情等が発生した時には、その都度職員間で協議、共有し日々のケア、運営に反映出来るように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員同士の懇親会を月に一度行い、その時に出た意見や要望を日々のケア、運営に取り入れている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個人生活においてなるべく安定できるような給与水準を実行し、福利厚生においても就業規則に反映し職員が無理なく働けるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等があれば積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県央部グループホーム協議会に参加し交流や相互研修などを行い互いのサービスの質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている 訴え時や変化が見られる時には、居室等で一人ひとりとじっくり話をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に、アセスメントを行い来所時にもその都度ニーズを聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時に当ホームの特性を細かく説明し、他のサービスの利用が妥当であれば、説明をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事（調理）・散歩・買物等を共にし、お互いに過ごしやすい環境づくりをしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や行事等で利用者の生活を共にし、家族からの要望を取り入れた環境をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望する場所へ出掛けたり、馴染みの友人等の来所を快く受け入れている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の揉め事時には、スタッフが間に入り対処している 利用者同士が不安や悩み等を話し合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム便りを郵送したり、必要に応じて連絡を取り合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの要望を取りいれ、困難な場合にも出来る限り気持ちを汲み取れる様に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントや本人・家族より情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察をし、小さな変化にも迅速に対応できるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所時に近況報告をし、それぞれの意見を取り入れ一人ひとりに合った計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報を作り、日々の利用者の状況・行動・変化を毎日記録している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望や、状況により外泊・外出・習い事等を支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、今は散歩、民謡会ともボランティアの導入は無し		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、ホームの主治医を確保している 希望がある場合には、本人のかかりつけ医への受診を行っている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医を中心としたネットワークがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連絡をとり、早期退院に向け話し合っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・主治医と繰り返し話し合いを行い、方針を共有している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を定期的にしていないが、今後 救命救急講習会をスタッフ全員が受ける予定	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の協力を得て、避難訓練を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族の一員として親しみの持てる態度・声かけを心掛け、記録等ではプライバシーの保護（イニシャルで記入）に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりにわかりやすく説明し、自己決定できる様、促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日中・夜間と利用者のペースで一日が暮らせるケアを常に心掛け、外出・買物・調理においてものんびり・ゆっくりを心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型・服装等、個人を尊重しつつおしゃれ、アドバイスをを行っている2ヶ月に1回、理美容師が来る他、要望に応じて近隣の理美容を利用している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・買物・食材選び、調理を毎日共に行っており、個々の好みを反映した料理を日々作っている 季節や行事を取り入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕食と毎日献立を記録して、糖尿病、体重、運動に合わせた食事の量を摂取している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立を促しながら適切な口腔ケアをしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、声かけ・トイレ誘導等により、失禁を減らせる様に自立を促している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスの整った食事作りを心掛けている 散歩及び食事前の体操を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望した日時・入浴時間を尊重して入浴している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し安眠、休息の出来るように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬は職員が管理し、用法や用量を承知している 服薬時には職員の見守りの上行い、誤薬を防いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が役割や楽しみを持っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物・散歩は日常的である 希望がある場合には、その都度対応出来ている 普段は行けない場所については要望があれば検討している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者統一で、事務所の金庫で所持金を預かっているが外出・買物時には、希望に応じ個々のお財布を所持し、使用出来る様にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に、自由に使用している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに食堂内の装飾等で雰囲気を変えている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けのソファ等、利用者同士がくつろげる場所を確保している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使い慣れている家具等を持ち込んでいただき、本人の過ごしやすい居室づくりをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差等に滑り止め・蛍光テープなどを設置している 居室においても、本人に合わせて、椅子やベッド・布団等を利用している		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ブルーホーム  
タケウス 鶴巻温泉

作成日 H.26.12.7

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	27	個人日報をみて、 ワークシート（中級課題 表）が実施されているか いないかを、わかるように する。	個人日報をみて、 ワークシート（中級課題 表）が実施されているか わかるようにする。	個人日報とワークシ ット表の記入の状況 記入の状況を把握 する。	6か月
2	13	研修、非常勤には 研修の参加状況を 把握する。	1人以上研修 に参加する。	研修の参加状況を 把握し、研修を 調整する。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。